

令和7年度 施設管理運営事業評価票(令和6年度実施分)

1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立中山台コミュニティセンター			
所在地		宝塚市中山桜台5丁目15番2号			
指定管理者	団体名	中山台コミュニティ	指定期間	開始日	令和3年4月1日
	所在地	宝塚市中山桜台5丁目15番2号		終了日	令和8年3月31日
選定方法		非公募	評価実施年		指定期間5年のうち4年目
施設設置目的		地域社会における市民相互の交流及び相互扶助並びに市民の主体的な学習活動等を促進し、連帯感のある新しいコミュニティづくりに資するため。			
主な実施事業		会館管理運営事業			

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用回数	回	-	1,921	-	2,128	-	2,393	-	2,314
b 稼働率	%	-	21.5	-	22.8	-	25.7	-	24.8
c									
d									
e									

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区 分		令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算
収入計	A	14,311	15,051	16,022	15,646
指定管理料		11,022	11,022	11,022	11,022
利用料収入	C	2,555	2,831	3,102	3,162
自主事業収入		0	0	0	465
その他		734	1,198	1,898	997
支出計	B	14,267	15,566	15,909	15,646
指定事業費		14,267	15,566	15,909	15,646
内、人件費	D	7,184	7,829	7,836	7,900
内、再委託料	E	2,644	2,480	2,776	2,782
自主事業費		0	0	0	0
事業収支	A-B	44	-515	113	0
利用料金比率	C/A	17.9 %	18.8 %	19.4 %	20.2 %
人件費率	D/B	50.4 %	50.3 %	49.3 %	50.5 %
再委託費比率	E/B	18.5 %	15.9 %	17.4 %	17.8 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	
------	--

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目	評価基準	自己評価	所管評価
① サービスの履行の確認	法例に基づいた点検、報告の実施、個人情報への配慮、保守点検、清掃等の日常業務、緊急・災害時の市への円滑な連絡と協力等、業務の実施状況についての評価を行う。	A	A
② サービスの質の評価	事故防止、安全確保、環境への配慮、利用者に対する接遇、苦情処理への適切な対応等、利用者に提供するサービスの質の水準を評価する。	A	A
③ サービスの安定性の評価	専用の口座、帳簿等を備え、収支計画に沿って適切に経理、予算決算処理がなされているか評価を行う。	A	A
指定管理者所見 (成果、課題等)	①令和6年度は、新型コロナの影響はなくなるも、コロナ前までは戻っていない。これは、新型コロナの期間中に高齢者の参加者数が減少した為である。 ②令和6年度の指摘事項は従来の使用料収入を、従来の部屋使用料収入とカラオケ使用料・麻雀卓使用料収入を別々に把握するように指摘いただいた。令和7年度より実施予定となる。 ③火災訓練は年1回の訓練で良いと指導があり、中山台コミュニティセンターの火災訓練は、令和6年度は10月22日の1回のみ実施した。 ④土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)の工事が完了したが、コミュニティセンターの裏山全般に大木の倒壊などの恐れがありご利用者の安全・安心の為に、今後とも市と相談しながら対処していく必要がある。今後は、より一層、地域に開かれた使い易く、安全で楽しく居心地の良い拠点となるように努める。中山台コミュニティセンターの工事関係が予定される為、ご利用者の安全を一番に置きご利用者へのご理解とご協力を得ながら、工事が無事完了するように努める。		
施設所管課所見 (成果、課題等)	設備等の点検委託などを適切に実施され、適宜、その結果報告を市へ行っており、施設保全の面から貢献度は大きいと考える。 また、個人情報保護に適切に取り組むとともに、空調の小まめなオンオフや温度設定など、省エネに関する利用者への啓発に取り組むなど、高い水準の管理を徹底されている。 収支については、近年の光熱費や人件費が高騰している厳しい運営環境の中でやりくりされており、利用者への理解も得ながら運営管理をしていることは高い評価が得られると考える。 課題であった利用者数についてもコロナ禍以降としては比較的多く、環境の変化とともに定期点検をこまめに行うなど利用者が気持ちよく利用できるよう努めていただいた結果が見えるといえる。 今後も引き続き施設の維持と向上に努めてもらいたい。		
前年評価	A	総合評価 A	

※評価区分

評価基準:	A (優良)	= 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	B (良好)	= 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	C (要改善)	= 協定書、仕様書等に定める要求水準を満足していない。
総合評価:	A (優良)	= 自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、かつAが4つ以上ある。
	B (良好)	= 優良、要改善以外の評価
	C (要改善)	= 自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。